

鯨類資源推定

国際捕鯨委員会による資源量推定に関する最新の情報 <https://iwc.int/estimate>

ミンクジラ

資源	資源量推定値が該当する年次	大凡の最良資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
南半球	1985/86 - 1990/91	720,000	510,000-1,010,000
南半球	1992/93 - 2003/04	515,000	360,000 - 730,000
北大西洋(北東)	1989	64,000	50,000 - 80,000
北大西洋(北東)	1995	112,000	95,000 - 130,000
北大西洋(北東)	1996 - 2000	80,000	65,000 - 100,000
北大西洋(北東)	2003 - 2007	81,000	60,000 - 110,000
北大西洋(北東)	2008 - 2013	90,000	60,000 - 130,000
北大西洋(中央)	2005 - 2007	50,000	30,000 - 85,000
北大西洋(西グリーンランド)	2007	17,000	7,000 - 40,000
北太平洋(北西太平洋とオホーツク海)	1989 - 1990	25,000	12,800 - 48,600
北太平洋(北西太平洋とオホーツク海)	2003	約 22,000+	検討中

シロナガスクジラ

資源	資源量推定値が該当する年次	大凡の最良資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
南半球(ヒメミンクジラを除く)	1997/98	2,300	1,150 - 4,500

1978/79 から 2003/04 の間のこの資源の増加率は年 8.2%と推定されている (95%信頼区間は 3.8-12.5%)

ナガスクジラ

資源	資源量推定値が該当する年次	大凡の最良資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
北大西洋(東グリーンランド/フィロ諸島)	1987 - 1989	15,000	11,000 - 20,000
北大西洋(東グリーンランド/フィロ諸島)	1995	22,000	16,000 - 30,000
北大西洋(東グリーンランド/フィロ諸島)	2001	26,000	20,000 - 33,000
北大西洋(東グリーンランド/フィロ諸島)	2007	22,000	16,000 - 30,000
北大西洋(西グリーンランド)	2007	4,500	1,900 - 10,000

コククジラ

資源	資源量推定値が 該当する年次	大凡の最良 資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
北大平洋(東)	1997/98	21,000	18,000 - 24,000
北大平洋(東)	2000/01	16,500	14,000 - 18,000
北大平洋(東)	2001/02	16,000	14,000 - 18,000
北大平洋(東)	2006/07	19,000	17,000 - 22,000
北大平洋(西)	2007	121	112 - 130

ホッキョククジラ

資源	資源量推定値が 該当する年次	大凡の最良 資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
北太平洋(ハークリング・ フィッシャー・ビューフォート海)	2001	10,500	8,000 - 13,000
北太平洋(ハークリング・ フィッシャー・ビューフォート海)	2004	12,600	8,000 - 20,000
北太平洋(ハークリング・ フィッシャー・ビューフォート海)	2011	17,000	15,700 - 19,000
西グリーンランド索餌場	2012	1,300	900 - 1,600

1978 年からのこの資源の純増加率は、年 3.2%と推定されている(95%信頼区間は 1.4%-5.1%)

ザトウクジラ

資源	資源量推定値が 該当する年次	大凡の最良 資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
南半球(南極海索餌 場を一部カバー)	1997/98	42,000	34,000 - 52,000
南半球(南米東)	2005	6,200	4,600 - 8,500

約 7%の増加率

南半球(南米西)	2003 - 2004	2,900	2,000 - 4,200
南半球(西豪州)	2008	29,000	24,000 - 40,000

1999-2008 年、約 10%の増加率

南半球(西アフリカ)	2005	9,800	7,000 - 12,000
------------	------	-------	----------------

約 4-5%の増加率

南半球(東アフリカ繁殖 集団)	2006	14,000	11,000 - 19,000
北大西洋(北西大西 洋)	1992 - 1993	11,600	10,000 - 13,500
北大西洋(西グリーン ランド)	2007	2,700	1,400 - 5,200

1984-2007 年、約 9%の増加率

北太平洋	2007	22,000	19,000 - 23,000
アラビア海	2007	80	60 - 110

セミンクジラ

資源	資源量推定値が該当する年次	大凡の最良資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
南半球	2009	12,000	
南西大西洋	2009	3,300	
約 7%の増加率			
南部アフリカ	2009	3,900	
約 7%の増加率			
亜南極ニューゼーランド	2009	2,700	
南中央と西豪州	2009	2,000	
約 7%の増加率			
北大西洋	2010	490	

ニタリクジラ

資源	資源量推定値が該当する年次	大凡の最良資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
北太平洋(西)	1999 - 2002	21,000	11,000 - 38,000

ゴンドウクジラ

資源	資源量推定値が該当する年次	大凡の最良資源量推定	大凡の 95% 信頼区間
中央・北東大西洋	1989	780,000	440,000-1,370,000

鯨類資源の包括的な評価

国際捕鯨委員会 (IWC) が 1982 年の総会において 1986 年からの商業捕鯨の一時的な中断 (通俗用語で言う「モラトリアム」) に合意した際、かかる規制改正には「本委員会はこの決定が鯨類資源に及ぼす影響の“包括的な評価”を実施し、その結果を踏まえてこの規程の変更および他の捕獲制限の設定を検討する」という条項が含まれています。

「包括的な評価」という用語は本委員会によって定義されておらず、最終的に科学委員会が以下のように定義しました：

“現行の資源量、最近の資源動向、環境収容力と生産性の検討を含み…管理目標と手続きに照らした、すべての鯨類資源の状況の綿密な評価”。

これまで本委員会は次のような鯨類資源の包括的評価を完了し、または引き続き実施しています：

- クロミンクジラ (南半球)
- ミンクジラ (北大西洋、北西太平洋)
- ナガスクジラ (北大西洋)
- ザトウクジラ (南半球、北大西洋)
- ニタリクジラ (北西太平洋)
- ホッキョククジラ (ベーリング・チュクチ・ビューフォート海)
- シロナガスクジラ (南半球)
- イワシクジラ (北太平洋)